

第3回 まほろば健康パークにおける インクルーシブ機能検討委員会 議事概要

【日時】 令和6年9月5日（木） 10:00～11:30

【場所】 奈良県庁第3会議室

【出席者】 鶴殿委員（WEB参加）、菅家委員、根本委員長、野村委員、
星野委員、前田委員、松本委員、矢藤委員（WEB参加）

[オブザーバー]

柳澤国営飛鳥歴史公園事務所所長、
東田大和郡山市建設部長（欠席）、
川西町まちづくり推進課 栗原氏

【概要】

・第3回委員会の議題は、以下の1点

①導入する機能・提供するサービス

以下の内容について事務局より説明

- ・（資料3）検討委員会（第3回）委員会資料
（導入すべき機能・提供すべきサービス）

【各委員・オブザーバーの意見】

A 委員

- ・アンケートやワークショップでの意見で、健常者を中心にあれが欲しいこれが欲しいという意見を集めているが、人気があるものは事業として成り立つだろうから、民間が対応すればよい。
- ・事業者ヒアリングで、インクルーシブの視点や評価について認識されていることは、興味深い。
- ・多様な人たちが楽しめることを目指すことは異論がないと思う。しかし、いきなりみんなが遊べるような整備ができるかといえばイメージがわからない。まずはみんなで遊べることを目指して少しずつでも始めればよいと思う。そのため多目的は無目的という言葉の通りでなんでも使える施設は何も使えない、まずは少し体が不自由な方を仲間にしていくという仕組みを目的にしていくことから始めるのが良いと思う。

B 委員

- ・公園内の道路を車で走る時に、安全性や通過交通に関しては対策が必要であるが、行き止まり等が無いようわかりやすくしてほしい。
- ・駐車場が少ない。今回のアウトドアエリアのキャンプ場の提案があるが、

荷物があるのでオートキャンプ場あるいは近くまで乗り入れるようにすべきである。

- ・ 交流エリアのそばにも駐車場がないので、駐車場から歩くとかなり大変である。駐車場はまとめないで分散して配置すると家族の利用がしやすい。
- ・ 導入する施設の利用性を高めるため、近くにトイレや水場を必要に応じて配置する。また、適正な維持管理を想定した施設規模とし、後々十分な管理ができずに安全性や清潔性が保てないことが無いようにしていただきたい。現状では利用率が低いので、また行きたいと思わせリピーターが増えるような公園にしてもらいたい。

C 委員

- ・ アウトドアエリアは恒久施設が作れないのでモバイルトイレを導入すべきである。普通車でもけん引できるので災害時に移動して使用できる。車いすでもスロープで使用し、着替えもできる。大きさは 1.9m×3.0mである。
- ・ 10月13日の枚方万博でモバイルトイレが展示される。まだできたばかりで輪島で導入が検討されている。

D 委員

- ・ 近年の猛暑もあり、これだけ広い公園になるので暑熱対策として屋根付きの休憩場所も分散して配置する必要がある。
- ・ 既存の公園では設備が不十分であり、外遊びをした後の衛生面の水道が感染症対策としても必要である。

E 委員

- ・ 長く続く暑さで、子どもたちの野外活動は難しくなっている。雨天時も含め体育館的な箱ものも必要と考える。エアコンが効いてイベントや事業がやりやすい。
- ・ 子どもたちは水を見ると触れたい。自然な流れやせせらぎなどがあると良い。
- ・ 電車からも見られ、ファミリー鉄道もあり、電車が1つのキーワードになる。電車からの見え方に工夫が必要であり、鏡状の噴水等を整備すれば電車から見られ子どもから大人まで楽しめる空間とすると良い。自然を利用しながら異年齢が多様な遊びが展開できるようにゾーン区分も工夫してほしい。
- ・ 静的な小さな空間での遊び場と動的な広い空間での遊び場の設定が必要である。インクルーシブの障害者のためにも大小の空間があるがはっきりと分けられないような工夫が必要である。

F 委員

- ・公園で困ったこととして「ゴミや犬・猫の糞が落ちている」とあるが、本公園では犬等の散歩を許可するのか、完全にシャットアウトするのか。
- ・公園をきれいなイメージとなるようアピールし、多くの人に来てもらいたい。特に障害のある方に障害がでることも考えられる。
- ・救急の場合の救急車の通行、近年増えている天気の急変があった時の避難場所としての屋根のある施設は必要である。
- ・交流エリアの丘は、夕日がきれいに見え、夕日の丘と呼ばれていたが、周りの樹木が成長して見えにくくなった。もう少し高くすると展望が良くなり、そり滑りなどもでき魅力的な場所になる。
- ・子ども広場の遊具は鉄製で夏季に触れないくらい熱くなる。夏だけでも使えるテントやミストがあると良い。

G 委員

- ・アンケートを見ると公園の利用頻度が低いと感じる。子どもたちの公園に対する期待値が低い印象である。近隣の小学校でも利用しないあるいは年に1、2回の回答が4割になっている。裏を返せば公園のあり方によってはポテンシャルがあり、伸び代があると言える。
- ・今回のアンケートは小学生が多かったが、交通の便もよく誘致範囲を広げるためにも中高生の意見も聞くべきである。若者のワークショップや意見を聞く場を設けてはと思う。大人たちだけで機能等を決めるのではなく若者の意見や発想を反映すべきである。
- ・具体的な情報を提示して、どのようにすれば使いやすくなるか。考える、作る、育てるの各段階で継続的に関わりを持てればよい。
- ・大屋根の中に遊具があるが、海外ではあまり見ない。遊具を置くと特定の利用者層に限定され、屋根の意味が弱くなってしまふ恐れがあり、大屋根は多様で汎用的な使い方ができるようにすべきである。
- ・屋根だけでなく、布等のシェードで日陰を作ることも効果的である。
- ・民間提案機能として、障害者のためだけだと利用者が限られ民間が提案しにくいと思う。障害のある人もない人も楽しめる取り組みを打ち出し交流を深められることが重要である。

H 委員

- ・アウトドアエリアについては、現状では下水道用地となっており整備できる施設に制約があるが、特に動線について安全性を含め次回協議していきたい。敷地の境界をにらみながら施設計画や動線についても検討していきたい。

- ・水を利用することが求められている。都会的な場所では薄層水盤の整備が、自然的な場所ではせせらぎや池の整備が望ましい。
- ・交流エリアの芝生広場は、調節池機能との兼ね合いもあるがアンジュレーションの変化をつけることが望ましい。
- ・インクルーシブとして機能は、個別の遊具ではなく、公園全体で健常者も障害者も含めた対応としての取り組みが必要である。先進的な事例も少ないが、暑熱対策として大屋根を作ったり、室内での遊びについて議論を収束していったり、魅力を高める導入施設についても検討も必要である。

I オブザーバー

- ・川西町からのアクセスが悪い。北側への駐車場も行きにくい。周回的な道路整備ができると良い。
- ・アウトドアエリアを広くして車のアクセスもできるようにしてほしい。
- ・東側の大和平野中央田園都市構想とのアクセスについても検討していただきたい。

J オブザーバー

- ・インクルーシブの理念が明記されていないが、奈良県の方針を決めてから本公園でのあり方を決めることが望ましい。細かな提案や指摘が多いが、あと2回でとりまとめることは難しいと思う。国交省での整備も含め前例が少ないため、先進的な取り組みとなることを期待する。

【まとめ】

- ・新設エリアは障害のある方を中心に新しく整備していく必要があるが、そこにも様々なターゲットの人を受け入れられる場所を作る必要があり、大屋根の話がポイントになってきたと思う。
- ・様々な人を巻き込むためには、中心の芝生広場の交流エリアが大きなポイントになる。貯水機能の話もあるが公園全体の中心としてとらえる。
- ・課題として駐車場の話がある。東西に駐車場が配置されているが300mくらいある。この間をいかにつないでいくか。これを公園の骨格として、新設エリアをどのように整備していくか。
- ・樹林地を回遊ルートとして設定しているが、いかに活用していくかも重要である。
- ・配置にどのように落とし込んでいくかが次回の議題となる。
- ・実際に使われる若者の意見をウォッチしていく必要がある。

- ・動線として、安全に配慮した車の動線をどうするか検討する必要がある。
- ・強化する機能として、暑さ対策、雨対策が大事で、様々な人が集いやすくなる。屋根をどうするか検討する必要がある。
- ・自然もあるが、水の提案が多かった。水の扱いをどうするかも落とし込んでいく必要がある。
- ・公園の中でインクルーシブの大前提をもう一度整理する必要がある。
- ・次回は、今回の議論と重複するところもあるが、動線とゾーニングについて今回の議論を深めつつ話を進めていきたい。